せいわ

タンポポ
草萌ゆる
土手の道辺に
映ゆる黄
たんぽぽの咲く
道を歩みぬ
順頁

☆発行所☆
府中静和寮
広島県府中市土生町1636番地の1
TEL(0847)41－2375
FAX(0847)41－8620
☆発行人☆
寮長　大橋　亙

静和の軌跡 ④

「成人」を迎えた静和寮とその後

すべての終わりは始まりでしかない。昭和三十年代後半、大きな転換期を迎えた日本は新たな歴史を刻み、歩んで来た。静和寮の歴史も日本の歴史の一部として、歩み続けた。

昭和一四年に創立した静和寮も二十年を迎え、人で言えば『成人』になったと言える。その間、お年寄りのお世話をしてきたが、果たしてお年寄りに真の満足を得ていただいていたか、甚だ疑わしい。単に二十年という歳月が流れただけだったのか？

しかし、この二十年の歩みは決して坦々たるものではなかっただろう。

日本の転換期、高度経済成長期突入の折り、東海道新幹線の開通、東京オリンピック開催など、暗雲たちこめる日本を一気に活気づけたといっても過言ではないだろう。

そのころの静和寮では、どんな暮らしをしていたのだろうか。

八畳間に四人が生活をしていた当時、今もなお続いている陣地取りが既に始まっていたという。当然のことながら、一人二畳ずつの激戦区であった。

夏ともなれば、一部屋に扇風機一台を四人で使うわけであるから、ご想像にお任せしたい。冬は炭団を使用していたが、寒さを凌ぐために布団を何枚もかけていたので、よく焦がした。

当時は、入所者当番制を導入していて、風呂掃除、配膳、集会室掃除などそれぞれに当番が決まっていた。

この頃の静和寮では、輪投げがブームになっており、少し古いがお昼どきのOLが、屋上でバレーボールをして過ごすのと同様に、静和寮のお年寄りも輪投げ大会に向け、必死に練習をしていた。

地域交流など、今では当然のようになったが、当時既に地域住民や近隣保育所との交流も盛んに行われ、地域振興圏？であったように思われる。（つづく）

静和寮の大運動会

めだか劇団による交流会

「福祉」なんでもトピックス

介護保険被保険者となるには

介護保険制度スタートの前準備として本年十月から【要介護認定】作業が始まる。前準備と書いたが、実質スタートである。

今回は『被保険者となるまでの流れ』を簡略に紹介してみよう。この保険はすべての国民が加入する公的社会保険である。

一、心配なのは保険料

▼保険料の払込は、四十歳から生涯掛金。▼せいわ二号で書いたように、加入者には六十五歳以上（第一号被保険者＝以下第一号という）と四十歳から六十四歳まで（第二号被保険者＝以下第二号という）の二種類がある。▼保険料は、第一号と第二号ではそれぞれ計算方式が異なる。従って金額も異なる。▼払込については、第一号は年金（年額一八万円以上の者）から天引き、第二号は医療保険料と一括して天引きとなる。年金額一八万円以下の者や低所得者には、別途取扱が考えられている。▼保険料月額は、まず月額基準額が保険制度の運営主体であるそれぞれの市町村や広域連合・一部事務組合（以下運営主体という）で決定される。その尺度は、各運営主体での介護サービスの充実度（介護水準の高低）によって、基準額が異なる。

このことは、水準が高ければ保険料が高く、低ければ保険料は低くなることを意味する。個別保険料は大まかに言えば、基準額を中心に減額階層二段階、割増階層二段階の計五段階方式としている。▼従って、運営主体間、各被保険者間に差異がある。第二号については、健康保険か国民健康保険かによって異なる。

二、保険証と受給介護サービスは

▼保険証は、六十五歳以上の保険加入者すべてに交付され、四十歳から六十四歳までの者には【老化に伴う疾病による、要介護状態者】に限って申請し、介護サービス受給が認められた者にのみ交付される。▼受給介護サービスについては、第一号は要介護認定で要介護者と認定された者が、要支援、要介護（介護度五段階）の各段階限度額範囲内で選択により受給できる。

加えて、全額自己負担で随意のサービスも受けられる。終わりに、一つは保険料が支払えなかった時どうなるのか、これには特例として【災害被災者になった時…】減免・猶予とされているが、果たしてそれで問題は解決するのか。

いま一つは、各運営主体が介護保険事業計画を策定しているが、この計画策定委員会へ向けて、意見をどう反映するかが重要となる。

（大橋）

デイサービスのようす

デイサービスでは二ヶ月に一回“家族の集い”を行っています。

●平成十年度実施状況●

①日　時／二ヶ月に一回
　一六時三十分～一八時頃まで
②場　所／デイサービスセンター二階
③参加対象者／どなたでも可
④内　容
　第一回
　「介護教室の進め方・デイサービスについて」
　第二回「在宅生活で困っていること」
　第三回「老人の体と心」
　第四回「老人に起こりやすい疾患」
　第五回「介護によって防ぐ床ずれ」
　「誰にでもできる介護テクニック」

次回“家族の集い”は5月下旬の予定です。後日案内を致します。

居宅でお年寄りを介護されている方へより安心安全な介護ができるように基本的な介護方法などを一緒に勉強していきます。同時に茶会のように気軽に話せる場をつくり、家庭上での介護の悩みなどについて、話をしていただいております。

同じ境遇の方の体験談や意見交換などで、不安やストレスが少しでも軽減できればと思っています。そして、次も『参加したい！』という気持ちになって頂きたいとも思っています。

まだ始まったばかりですが、一人でも多くの方が参加できるように、努力していきたいと考えております。供に手をとりあい、頑張りましょう。

《家族の集い》同じ思いをされている方おられませんか？

◆介護は、私がほとんどしている。「なんで私ばっかり…」と思う事もある。
◆すべて嫁が悪いように言うので、ついつい大きな声で言い合いになる。
◆おじいさんが夜中に何度も呼ぶので、私の体の方がまいってしまう。

介護者は今

今年、妻との金婚式を迎えます。

思えば、妻が病気になったのは平成六年。それから四年間介護を続けています。平成七年に手術をし、意識がもどらず心配した事がありましたが、今は元気にデイサービスに行っています。

トイレやお風呂の場所がわからなかったり、衣服の着脱がわからなかったりとほっておけない状態なので「情けない！」と、ついつい怒ってしまう事もあります。

入院中は「行くよ」と言っても体が動かなかったり、私の方が怒られたりしていたので、その事を思うとずっと楽になりましたが…。

妻は私に頼り切ってしまっているので、自分の方が先に倒れてしまったらどうしようという事が一番の心配事です。

そのことを思うと、とても不安になりますが、自分自身が日々元気で生きていくという事が、大事だと考えております。

ファイト、ファイトで頑張ります。

栗柄町　岡本　卓士

ザ・仕事師

（その2．寅年・卯年）

私の好きな事 得意な事

第四回「楽」

「喜怒哀楽」

奥野内科医院
奥野府夫

喜、怒、哀、と来て今回は、最後『楽』です。

音楽、楽天家、千秋楽など、楽の付いた漢字はいずれも浮き浮きとするような字義通りの楽しい響きがしますが、ここでは『先憂後楽』という言葉を考えてみたいと思います。

この言葉は、政治家のあるべき姿として述べられたもので、一般民衆に先立って天下の安危を心配し、民衆がみな安楽な生活を送るようになった後に楽しむという意味です。本来、天下国家的レベルで徳の高い仁者の心がけを述べたものですが、私は何かにつけてこの言葉を自分流にアレンジして、自分の生き方に取り入れています。

自分で言うのは気が引けますが、私は中高学校の学科試験では、かなり良い点を取っていましたが、今から考えてもよく勉強していたと思います。眠たいのを我慢しながら、遅くまで机にかじりついていたのを思い出します。今頃みんなはテレビを観ているんだろうなぁ、もういびきをかいて寝てるんだろうなぁと思いながらもがんばりました。

何も生まれつき頭が良かったのではなく、苦労して努力した結果が高得点というわけで、これは当然のことだと思っていました。芸術とかスポーツなどには才能といったものがあり、いくら努力してもモノにならないこともありますが、学校で学ぶ事柄といったものは、誰でもがんばればそれなりの結果が出るものです。

がんばったのに正当に評価されないとしたら、それこそ不平等です。最近は、まじめに努力する子はかえって、イジメられたりする風潮があるようで嘆かわしいことです。先に苦労して努力した者は、後でそれなりに報われなければなりません。それが正義というものです。

宮部みゆきの直木賞作品『理由』は、カードローン破産を描いて傑作ですが、ここにも先憂後楽の逆を行く、先に楽をして後で苦しむ『先楽後憂』の世界があります。お金がないのにあれこれローンで買う。

ローンと言えば聞こえはいいが、借金のことですからいつかは返さなくてはならず、借金を返すために借金することを繰り返すうちに、雪だるま式に借金がかさみ、ローン地獄に落ちて破産、厳しい取り立てに夜逃げという結末になる。

冷静に考えれば、子供にでもわかる理屈です。余裕がある範囲で買う、コツコツお金を貯めて買うのが常識で、そうして買ったものは大事に使って、決して粗末に扱いません。服が、ブランド品が、車が欲しくてたまらなくなると目が眩んで、事の善悪すらわからなくなってしまい、手っ取り早くお金を手に入れるため銀行を襲う、コンビニへ押し入る、援助交際をするといった短絡的行動にいとも簡単に走ってしまう。

そこには、戦後高度経済成長とともに影のように育ってきた汗水たらすことを嫌い、苦労して努力することを軽蔑し、楽をして物を追い求める『先楽後憂』の時代の申し子が、今や親となり子を育てている。

これから先、どのような世の中になるか恐ろしい。私が生まれ育った終戦直後、物がなく、不便ではあったけれど、決して不幸ではなかった時代が懐かしい。

『喜怒哀楽』完結…

奥野医師

ローバの休日

宮奥 キミヨ　91歳

この静和寮に入寮して、九ヶ月になります。入寮する前も、デイサービスやショートステイを利用していたので、施設には馴染んでおり、入寮者の皆さんともすぐ仲良くなりました。それに私のいるところには、小学校時代の幼なじみの人もおり、とても懐かしい思いをしました。今はこうして、のんびりと毎日を過ごしていますが、若い頃は、主人と二人で桐箱づくりを頑張っていました。

主人との思い出は、働いたことばかりではありません。結婚五十周年の記念にヨーロッパに連れて行ってくれました。

視線はヨーロッパ

兵隊さんの交代が印象に残っているイギリス、ローマの休日で有名なイタリアなど、楽しんで廻ったことは、今でも忘れません。

丁度主人が七十歳で、私が六十九歳の時でした。七十歳でヨーロッパ？と、びっくりされる方も多いでしょうね。それから、ハワイへも行きました。

ここの職員さんに冗談で「泳いだ？」と聞かれました。ちょっとそれはさすがに無理ですが、海はきれいでしたね。でも、ハワイについて感想を言えば「何も観るところはないなぁ」と言ったところです。

優しかった主人も亡くなり、寂しくなりました。主人との思い出は、私の宝です。静和寮に入寮してからも、いろいろ連れて行ってもらいます。いつまでも元気でいたいものです。

夜勤実習を体験して

“あったかい介護をめざし頑張ります”

今までの実習では、昼間のお年よりの状態しか知りませんでした。昼間は特にこれといった問題などもなく生活されている方でも、夜間になると、ブザーを鳴らし「布団を直して！」と言ったり「用事は別にない」と言ったり、鉛をほしがったり、ベッドに寝れないからと言って座っておられたり、昼間元気にしておられた方が三十八度近い熱を出されたり、巡回では廊下に座ってタバコを吸っておられたり、編み物をされていたりと様々でした。

夜勤実習は、府中静和寮が初めてで一四時三十分から翌朝八時三十分までと、少し長い時間と思っていましたが、いざ業務に入るとお年寄りの方たちに「今日は泊まりなの？頑張りなさいよ！」「眠くなったらおいで、ベッド貸したげるけぇ！」など、やさしく声を掛けてもらい元気よく実習が始められました。

昼間は数名で行う排泄介助も、夜は寮母さんと二人で行いました。昼間でも大変だと思っていた事も、夜間ではそれを一人で行い、また、お年寄りに安心して休んでもらうために、たくさんの事に注意の目を向け気を配るという事は、すごく大変だけど、やり甲斐があり、暖かい仕事だなと感じました。

三月に卒業して、私も一人の介護福祉士としての仕事がスタートしますが、ここで体験したこと、人の温もり、優しさを忘れずに暖かい介護を目指し頑張りたいと思います。

最後に、ご指導下さった職員の皆様、入所者の皆様ありがとうございました。

福山暁の星栄養・福祉専門学校
高橋　清子

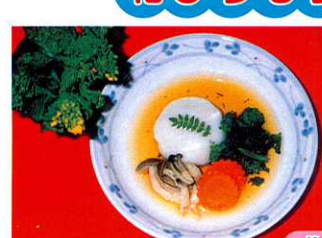
せいわ ほのぼの日記
あなたならどちら？

伝言板

＊今の福祉に対する『生の声』を募集しております。
＊介護上でのお悩みを募集しております。
＊その他、ご意見ご感想がありましたら下記へお送り下さい。

【宛て先】
★726−0021
広島県府中市土生町1636番地の1
府中静和寮　広報係
★0847−41−2375

体にやさしい健康食
花びらもち煮物風



エネルギー…110kcal
たんぱく質…3.6g
脂肪…0.6g

材料

白玉粉	20g
しめじ	20g
人参	20g
菜の花	20g
出し汁（昆布だし）	80cc
みりん	3g
醤油	5g
木の芽	1枚
ゆずみそあん	
白味噌	5g
ゆず皮	少々
砂糖	1g

作り方

①白味噌、ゆず皮、砂糖を火にかけ、混ぜ合わせゆずみそあんを作る。
②白玉粉を耳たぶくらいに練る。
③練った白玉粉に①で作ったゆずみそあんを入れ、だんごを作る。
④だんごは、沸騰した湯の中で茹でて、浮き上がったら取り出す。
⑤しめじ、人参はみりん、醤油で薄味で煮る。
⑥菜の花は塩茹でにする。
⑦器にだんご、しめじ、人参、菜の花を盛り付ける。
⑧最後に出し汁、みりん、醤油をひと煮立ちさせたら、⑦で盛り付けたものにかけ（ひたひたにつかる程度）木の芽を添えて、出来あがり。

編集後記

私は、話をするのが大好きです。でも、文章を書くのは嫌いです。こんな私が原稿をお願いしているのも変ですが、皆さん「文章を書くのは苦手だ！」と言いながらも一生懸命考えて下さいました。

おかげさまでせいわ四号目ができました。感謝の気持ちで一杯です。この場をかりてお礼を言いたい！

ありがとうございました。